

【 特 集 】

学術情報基盤センターシンポジウム —高等教育における情報基盤の役割と今後の展望—

学術情報基盤センター 塚本康夫

学術情報基盤センターではセンターシステム更新のために、平成18年3月13日から教育用端末を中心に基本サービスの運用を開始しました。その他のサービスについても順次変更を行っているところです。センターシステムの更新に伴い、新システムの紹介および今後センターが果たすべき役割を展望するために、平成18年11月2日に学術情報基盤センターシンポジウム—高等教育における情報基盤の役割と今後の展望—が開催されました。

シンポジウムでは、午前の部において当センターの田村直之教授による講演「新システムの紹介」があり、午後の部において本学学長補佐・情報管理室長 富田佳宏教授による基調講演「神戸大学におけるICT 戦略」に続き、特別講演として丸山宏 日本アイ・ビー・エム株式会社東京研究所所長による「高性能サーバの技術動向とイノベーション」、山元賢治 アップルコンピュータ株式会社代表取締役 兼 Vice



President, Sales Apple Computer による「Apple の教育への取り組み」、および伊勢崎修弘 千葉大学総合メディア基盤センター長による「地方大学のメディアセンターの現状」のご講演をいただきました。

特別講演について、日本アイ・ビー・エム株式会社の丸山宏氏のご講演の前半では、今後の世の中の変革を見据えた IBM の Global Innovation Outlook に関する展望について述べられ、後半は Global Technology Outlook に関する IBM のいくつかの技術戦略の中で高機能サーバに関連する取り組みが紹介されました。アップルコンピュータ株式会社の山元賢治氏のご講演では、Apple の iPod と iTunes を用いたテキスト・音声・画像・ビデオを媒体とするマルチメディア教育環境実現への取り組みと、時間および場所に制約されないデジタルキャンパスを構築するための今後の展望について、様々なデモンストレーション映像を駆使した紹介がありました。また、千葉大学総合メディア基盤センター長の伊勢崎修弘教授のご講演では、千葉大学を例に挙げ、国立大学の法人化に伴うセンター運営予算の減額や定員削減の重圧の中で、センターが学内の情報基盤整備に関わる確固としたマスタープランを持ち、学内へのサービス業務および研究成果の還元を行うことの重要性について、示唆に富む提言をいただきました。また、

講演後の総合討論において活発な質疑応答が交わされました。



シンポジウム終了後、瀧川記念学術交流会館に場所を移し、懇親会が開かれました。シンポジウムおよび懇親会の企画に当たり、学内外の方々および事務職員、学生の方々に多大なるご支援をいただきました。ここに深甚の謝意を表します。